昨三菱造船の給料渡し

結昨秋横領文書欺造罪として何れも公判に移された(長崎電報)

長崎三菱沈默

目下紛擾中の[illegible]三菱[illegible]造船所の[illegible]問題に[illegible]かすべく數名の委員長崎へ來り數日前引佐山にて一部職工を集めたが其目的を遂せずして解散したこの風說が傳はつたので同造船所及梅ヶ崎署等にて取調べた處何等事實の據るべきものなく或は製艦事業の多忙のため過般神戸造船所から應援職工三十餘名を差廻した事を時節柄誤り傳へたものではないかといふ、兎に角目下の處職工動搖の形跡はないとの事である(長崎電報)

	當限	中限	先限
桑名(前)	—	—	元・九〇
夕(後)	—	—	元・九一
四日市(前)	—	—	元・九七
夕(後)	三七・四	—	元・八六

三菱給料支拂

爭議風は何所を吹くと許り 至極穏かに終了引取る

特別の御詮議とあつて罷業中の日給も給與された

7.22

三菱職工一万五千人の七月上半月分給金支拂ひは昨紙所報の順序に依り休業中の工場外で午前九時から支拂はれた

此日職工は午前六時會下山に集合全員の勤怠調印を取り夫れから各自思ひ／＼に造船所前の支拂場に集まり急拵えの支拂場九箇所共定刻にはカーキ色の職工で埋まつた、職工は案外平穏で支拂を待つ間 炎天を避け三々伍々物陰に蹲踞まり私語し合つてゐる中

各工場の技師連が事務員を連れ各指定の拂渡し小屋に入り正九時一齊に支拂を開始した『補機五百七十六』『谷口榮吉』『ハイ』と云ふ調子に支拂は順序好く行はれた、內燃機は通用門守衛詰所と事務所玄關口二箇所で支拂つた、通用門守衛詰所では上井職工長が鋭く眼を光らして川島技師と交々職工に給料袋を渡す其後から窓越し 間部工作課長が人の好さ相な笑を泛べて眺めてゐる

又電機の方は支拂開始前全部職工を內燃機の食堂に添ふ道路で七組に分つて整列させ順次に表門で支拂はれてゐたが過日の門破りの騷ぎに破られた板塀には『徽章は胸に徽章受取證は手に』『混雑し間違ひなき樣、互に靜かに並んで下さい』と記した注意ビラが貼られてあつた

給料を受取つて靜かに歸つて行く職工の姿を眺めつゝあつた電機の西田庶務課長は曰ふ『今日の樣子では職工も非常に靜かになつた模樣に見受けますが、早く就業して貰はないと困りますよ…それで今後の方針?夫れは三菱の會社共同一歩調を取る事になりました、當工場も休日明けには開門する事になるでせうが

不穩と認めれば、又閉鎖ですかな、然し今日の狀態から察すれば再び閉鎖し無くても好いでせう』云々と語つてゐた、斯くて午前十時過ぎ全職工の給料は支拂はれて、何等不穩の行動も無く各自に歸途に就いたが渡された給金袋の中には左の警告文が、印刷されて同封されてゐた

告

怠業又は罷業中は賃金を支給せざるは勿論何等給與をなすべき筋合に非らざるも今回に限り家族の生計を顧慮し本月五日より十一日迄の間は特に入場一日に對し日給と同額の手當を給與す

今後怠業又は罷業をなしたるときは一切給與をなさず

大正十年七月二十日

三菱造船株式會社神戸造船所

行商活躍

野菜車を曳き 檢束者二名

尚當日三菱職で檢束されたものは三菱內燃機工の[illegible]番町二丁目百十番松野榮[illegible]が[illegible]金として同職工仲間の菱、船橋、中村の三名より五圓六十錢集金してゐた現行を押へられたのと電機工作課の職工で川崎町一の一尾太郎長男松本[illegible](二八)が去る十八日南榮座で演說會で言つた事が官憲の忌憚に觸れ檢束されたのと二人であつた、尚三菱行商隊は更に活躍し同日からは新に土用餅の外野菜其他を車に積み『三菱罷業工行商隊』の旗を立てゝ市中に活動してゐた

到る所で玄關拂ひ

毫も誠意を認めぬ

三菱の代表上京委員二名 一先づ交渉を打切り歸神す

三菱職工を代表して上京、東京本社に肉薄し初志の貫徹に力戰したが遂に要求條件は悉く容れられず拒絕されたので安井委員長、非上委員の二名は廿日午後零時廿分神戸驛着列車で一先づ歸神し在留委員等多數の出迎へを受け直に柳原第二青助俱樂部に入つた安井委員長は悄然として語る

『着京した當日一行は疲勞を押し本社に電話もて會見を申込んだ所承諾の回答あり直に本社に向ひ武田取締役會長、宮川[illegible]田外五名の重役と會見し職工側から提出として友愛會本部の松岡氏の立會を申込んだが拒絕され茲に會見に於て立ち書記の事に就いて小競合が演ぜられ會見を預繼きで終り翌日改めて正式の會見を遂りました

本社も矢張神戸同樣要求條件を悉く調査研究中或は工場委員制の如き近き將來に實施を見るであらうと突き放し要求書は受理する能はずと剣付くる挨拶極めて冷淡な態度を示した、只會社の誠意の在る所は職工に於て就業して會社の行ふ所を見よ』だけで[illegible]

弛めた模樣で武田取締役の如きは職工一級和の爲め暗に暗中飛躍を試み

又自ら『勞働者がこ調子に肉薄して來れば會社は金を空しく銀行に預け拱手傍觀せねばならぬ事になる』とて非常に心配してゐる模樣だつた』云々と